

滝  
富夫

— 定年後の楽しみ —

いつまでも

山に登りたい

# 『Boon-gate』のPDF作品を ご覧いただく前に…

## 操作について

- 作品の多くは「もくじ」のページで、進みたいページの項目を押せば、そのページまでジャンプし、また、ジャンプしたページのタイトルを押せば、目次のページに戻るよう設定しております。
- 直前に開いていたページに戻るには、画面上の「◀」ボタンで、直前に開いていたページに戻ります。

## 読み方いろいろ

- 通常は画面の「倍率」が100%前後になっていますが、「倍率」を150%まで高めると文字が読みやすい大きさになります。
- 通常は「見開きページ」で設定されていますが、「単一ページ」にすると読みやすく感じます。
- 読み進めるときは、「十字キー」を使用すると手軽です。
- 「サムネイル機能」を使用して読み進めると、2～3頁からとばし読みするのに便利です。
- 頁を「回転」させることが可能です。地図などを拡大して見るときに便利です。

[http://www.bungeisha.com/PDF\\_is/05-top1.html](http://www.bungeisha.com/PDF_is/05-top1.html) でPDF作品についての説明を致しております。ご参照ください。

— 定年後の楽しみ —  
いつまでも  
山に登りたい

An illustration of a hiking shoe and a hammer. The shoe is a high-top sneaker with laces, shown in profile. The hammer is a claw hammer, shown in a light gray color, positioned behind the shoe.

滝富夫



定年後の楽しみ

# いつまでも山に登りたい

## 目次

三〇年前の夢が叶う

燕岳から常念岳・蝶ヶ岳へ

一九九九年九月二六日～二九日

北アルプス縦走

酒沢から穂高連峰へ

二〇〇〇年九月二六日～二八日

奥穂高・前穂高に登る

日本第二の高峰

二〇〇一年九月一七日～一八日

北岳に登る

八ヶ岳連峰南端

二〇〇一年一〇月一五日

権現岳登頂断念

45

秀麗富岳十二景

二〇〇一年一月一六日

## 扇山・百蔵山に登る

紅葉の奥多摩

二〇〇一年一月二三日

## 鷹ノ巣山に登る

エベレストBC

二〇〇二年三月三日～四月四日

## 白き神々の座ヒマラヤを訪ねて

山容が東屋の日本百名山

二〇〇二年五月二日

## 四阿山に登る

深田久弥終焉の地

二〇〇二年六月七日

## 茅ヶ岳・金ヶ岳に登る

HUTTE ROUTEに行く

二〇〇二年七月七～一八日

## アルプス・トレッキング

巨岩のオベリスクを目指して

二〇〇二年九月二四日～二五日

## 鳳凰三山縦走

150

101

91

85

71

62

53

日本百名山の紅葉

二〇〇二年一〇月一七日

谷川岳に登る

168

秋の奥武蔵を歩く

二〇〇二年一月三日

大高取山・桂木観音

176

奇岩・奇峰の岩山

二〇〇二年一月六日

妙義山に登る

181

奥武蔵の里山を歩く

二〇〇二年一月四日

白入山・官ノ倉山

189

神流川に聳える双耳峰

二〇〇二年一月二〇日

東・西御荷鉾山に登る

197

丹沢山塊の東端

二〇〇二年二月一九日

仏果山・経ヶ岳に登る

204

草戸山、峰ノ薬師、泰光寺山

二〇〇三年一月一六日

南高尾を歩く

212



# 三〇年前の夢が叶う

一九七五年の夏、当時中学一年生の息子を連れて、初めて北アルプスの縦走を試みた。燕岳、大天井岳、槍ヶ岳、上高地といわゆる表銀座コースである。

このコースを歩いてみたいと思ったのは、今から五五年前のことである。今、七〇歳代の人であれば小学校国語読本に載っていた『燕岳に登る』という文章を思い出されるであろう。

〔出発〕山田先生の声が、中房温泉旅館の庭に勇ましく響き渡った。午前七時である。きのうの雨はからりと晴れて、太陽は、ほがらかにこの温泉の谷間を照らしている。〕

という書き出しで始まっているこの文章は、少年が燕岳の山頂に立つまでを、北アルプスの景観を織り交せて書いた登山記である。

私の小学校時代を振り返ると、第二次世界大戦、そして学童疎開、空襲などが、次から次へと思い出される。学校で思い出されるのが、この『燕岳に登る』の国語の授業で

ある。先生にあてられ、朗読を褒められた印象が強く残っている。

北アルプスの景観が、まだ見ぬ者に想い描けるように、流れるような文章でつづられていて、すっかり気に入ってしまった。最後の、

「山は広い」とぼくはつくづく思った。そして何年かののちに、きつとあの槍に登ろうという希望をいだきながら山をくだった。」

というところは、当時の私に山への魅力をかきたて、この少年と同じ気持ちにさせた。その夢がやっと叶ったのである。中房温泉の宿を夜の明けるのを待って、息子と二人で出発した。このときは、想いが叶えられた喜びで興奮していた。とりつきから急登であったが、一六キロのザックもさほど重く感じられなかった。山道のようにすは書かれた文章の通りである。合戦小屋を過ぎるとダケカンバの林がつづき、高山植物の花が咲き乱れている。とくに嬉しかったのは燕山荘のある鞍部にたどり着いたときである。一番気に入った文章のくだりそのものであったことである。

〔左端の穂高に続いて、槍ヶ岳が、それこそ天を突く槍の穂先のように突き立っている。更に右へ右へとびる飛驒山脈が蓮華、鷲羽、水晶、五郎と大波のように、屏風のように、紫紺のはだあざやかにそそり立ち、うねり続く雄大荘嚴な姿。ところ

どころ白雲がただよって、中腹をおおい、  
峰をかくし、谷々の雪渓と相映じて、  
山々を奥深くみせる。……

はてしなく広がる大景、重なるように連なる高い山、人を寄せ付けず流れる深い谷と、すべてのスケールが大きいのに度肝を抜かれ、一種の興奮を感じるほどであった。同時に長い間の夢が今現実のものとなった満足感を覚えた。

都会では、三〇年前の姿を見ることは難しいが、この北アルプスの自然の姿はそのままであった。いつまでも、この素晴らしい景観を残して、だれもが美しい自然と接することができるようにしておきたいものだ。



燕岳山頂にて（著者）

## 北アルプス縦走

台風18号が去り、高気圧におおわれて晴れの日がつづく。四日間も晴れの日がつづくのは、上高地ではめつたにないと地元の人のお話である。

夏のシーズンも終わり、登山者は少なく山小屋はわりとすいている。会う人ごとに「天気良かった」「恵まれた」と話す人が多い。

山小屋の食事は品数も多く美味しい。第一日目はハンバーグを主体に煮物、サラダ、デザートもつく。第二日目は焼き豚、ブロッコリー、トマト等、野菜も豊富である。第三日目の徳沢園ではステーキ、ワイン、ビールもでる。一昔前の山小屋の食事とは段違いである。

# 途中省略

本編はダウンロード時間短縮のため省略版でお届けしています。  
途中省略なしの完全版をご希望の方は製品版をご「購読」ください。

## 著者プロフィール

### 滝 富夫 (たき とみお)

- 1933年 東京・高輪に生まれる  
1956年 東京学芸大学卒業  
東京都内の公立小学校教諭  
1963年 東京教育大学附属小学校教諭  
(現在 筑波大学附属小学校)  
1994年 筑波大学附属小学校副校長 定年退職  
現 在 四季ハイキングクラブ会員  
フランス山岳会会員

## いつまでも山に登りたい —定年後の楽しみ—

---

2003年 9月15日 電子出版発行

著 者 滝 富夫

発 行 者 瓜谷 綱延

発 行 所 株式会社文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© Tomio Taki 2003 Corded in Japan

ISBN4-8355-6085-X C0095

(文芸社発行の通常書籍(紙の本)については、全国書店でお尋ねいただくか、「文芸社ON-LINE」  
サイト、<http://www.bungeisha.co.jp>を御参照ください。)